

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成23年7月分)

ご協力ありがとうございました。平成23年7月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 166社 回答 158社 回答率 95.2%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	12社 7.7% (21.6)	25社 16.0% (29.4)	60社 38.5% (34.6)	45社 28.8% (10.5)	14社 9.0% (3.9)	156社	27社 17.8% (15.3)	34社 22.4% (16.7)	41社 27.0% (31.3)	31社 20.4% (17.3)	19社 12.5% (19.3)	152社
売上高	9社 5.7% (23.4)	26社 16.6% (29.2)	59社 37.6% (31.8)	49社 31.2% (11.7)	14社 8.9% (3.9)	157社	26社 17.0% (19.2)	42社 27.5% (19.9)	35社 22.9% (27.8)	30社 19.6% (16.6)	20社 13.1% (16.6)	153社
在庫数量	1社 0.7% (4.7)	20社 13.2% (26.0)	79社 52.3% (44.0)	42社 27.8% (19.3)	9社 6.0% (6.0)	151社	12社 8.2% (11.7)	31社 21.1% (22.1)	57社 38.8% (35.9)	30社 20.4% (15.9)	17社 11.6% (14.5)	147社
販売単価	0社 0.0% (0.7)	15社 9.9% (13.5)	97社 63.8% (68.9)	38社 25.0% (16.9)	2社 1.3% (0.0)	152社	7社 4.8% (4.9)	38社 26.2% (27.1)	64社 44.1% (51.4)	30社 20.7% (13.2)	6社 4.1% (3.5)	145社
収益状況 (粗利)	6社 3.9% (8.5)	23社 14.9% (24.8)	69社 44.8% (45.1)	41社 26.6% (17.6)	15社 9.7% (3.9)	154社	14社 9.3% (8.7)	31社 20.7% (20.0)	45社 30.0% (33.3)	37社 24.7% (24.0)	23社 15.3% (14.0)	150社
稼働率 (生産・加工設備)	3社 2.4% (6.2)	19社 15.4% (27.4)	60社 48.8% (47.3)	37社 30.1% (17.1)	4社 3.3% (2.1)	123社	11社 9.3% (5.6)	23社 19.5% (20.3)	43社 36.4% (41.3)	27社 22.9% (23.1)	14社 11.9% (9.8)	118社
入出庫の トラック台数	4社 2.7% (9.0)	14社 9.4% (25.4)	83社 55.7% (41.8)	44社 29.5% (19.7)	4社 2.7% (4.1)	149社	13社 9.0% (5.8)	26社 17.9% (21.7)	66社 45.5% (41.7)	26社 17.9% (17.5)	14社 9.7% (13.3)	145社
	現在の景況感					145社	3ヶ月後の景況予測					140社
	2社 1.4% (1.4)	14社 9.7% (10.1)	49社 33.8% (30.4)	44社 30.3% (29.0)	36社 24.8% (29.0)		5社 3.6% (2.3)	36社 25.7% (30.8)	69社 49.3% (51.9)	24社 17.1% (10.5)	6社 4.3% (4.5)	
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査（7月） 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 7月初旬までは、それなりに引合いがあったが、中旬以降パツタリと動きが止まる。都心で物件が少しずつ動き出しているとの話を聞くが、本格的に動き出すのはやはり9月以降か。夏場は踏ん張り時である。7月の東鉄価格ステイで買い増しの動きも出ていないようで市中は当用買いに徹している。
- ② 震災の緊急復旧用は7月に入り一段落となり、カラー薄物も半減となっている。自動車関連も本格回復には至っておらず、土日操業や節電、円高、政局が全体の景況感を不透明にしている。薄板の市況は厳しいが、表面処理鋼板は10/k前後の値上げにて走っているが、荷動きは鈍く、中間価格のみは先行状態。夏休み明けの動向に期待しているが、銀行筋では9月以降、震災復旧融資の切り換え時期のリスクを訴えていた。取引先の与信管理をしっかりとしていきたい。
- ③ 東日本大震災後の緊急需要等の動きも止まり、建築、土木向けの需要環境は引続き厳しい状況となっている。住宅建築関係は緩やかな回復兆候があるものの、実感に乏しく、長期的な上昇傾向にある材料価格は受け入れ難く、価格競争は激化してきている。
- ④ 依然として荷動きは不振で、全く回復の兆しが見られない。在庫は新価格に切り替わっているが、幸い、安い輸入玉の流入もなく、表面処理の在庫は3月をピークに減少傾向にあるため、かろうじて膠着状態を保っている。今後の動き次第ではメーカー、流通の売り圧力が強まり値崩れの危険性を含んでいる。
- ⑤ 特約店は販売減少が止まらない。足の遅いサイズには在庫意欲が無い状況だ。
- ⑥ 震災の影響もあり、前年比では4ヶ月連続増となっている。8月からは落ち着くと思われる。
- ⑦ 高炉メーカーの値上げが実施され、高い在庫になっているが、需給バランスの乱れからか市況が回復してこなかった。しかし、大手紐付を中心に需要が回復してきており、需給バランスの改善と相まって、市況の回復も進むものと思われる。
- ⑧ 7月後半から仕事量が減ってきており、8月に入って一段と落ち込んだ。相場はボトムになっているが、在庫意欲が湧かずほとんど物は動かない。しばらくは低位の当用買いが続くであろう。
- ⑨ HONDAは一部の車種を9月より増産。TOYOTAが13円/kgの値上げを受け、市況はどう変わるか。

中板

- ① パイが小さくなっているが、業者数は不変。合併、統合あるいは淘汰が進んで行くのではないか。
- ② 7月の販売量は前月比増も、依然として荷動きは低調にて推移。高値のコイルが入荷する中、安値販売競争により採算割れの商売を余儀なくされている。需要は建設関連が期待できない中、当面厳しい環境が続くと予測している。また、スクラップの動向、輸入材の動向には十分注視が必要と考えているが、足下、定尺の荷動きが低迷する中、弱気の商売が続くと予測している。

厚板

- ① 当月も橋梁、鉄鋼津の端境期であり、前月と同様に低水準の山積みで、稼働率も5～6割程度である。1Qの橋梁の入札に期待したが、件数としては少なかつたため、関東案件を中心に多く出件される予定の2Qに期待したい。一方で、土木関連の加工が徐々に増えてきており、来月以降は高い水準になる。厚板としての需給は以前ほどタイトではないが、エネルギー関連を中心に好調である。価格面においては、高炉メーカーの値上げが順次実施される見込みではあるが、切板市況への影響は建材関連の需要が低調であり、また電炉材、輸入材の影響とも相まって上昇力は鈍く弱含みの状況である。
- ② 支給材加工が増えたため、売上数量が上がっても売上高は下がった。

一舟受开形鋼

- ① 今月から受注が少し上向くと推察したが、逆であった。被災地の復旧の予算執行の遅れ、電源問題が原因か。国内民間設備投資の低迷、円高による輸入圧力、世界景気不透明感等の諸原因によるものと思われるが、結果、同業者間の過当競争が激化している。内需6,000万トン時代への通過儀礼か、新しい産業構造模索への痛みか。失血せず乗り越えたい。

工工开形鋼

- ① 7月入庫量は減少しているが、出庫量が非常に低いレベルにつき、月末在庫量は増加になった。今月も稼働日数が少なく、引合い、荷動きの増加は見込めないだろう
- ② 市況は下げ止まりの気配は感じられる。しかしこれは流通の赤字販売に対する危機感によるものである。メーカーからの強いメッセージが出てくれば、変わってくるのではないか。

異形棒鋼

- ① いまだメーカー、ユーザーともに様子見となっている。動きは低位安定といったところ。

鋼管

- ① 5、6月の最悪期に比べて、やや良い程度で、不況感は続いている。
- ② 5、6、7月と日割りの売上に変化なし。低レベル横這い。
- ③ 7月は6月比では金額、利益とも減少した。市況も下落したが、8月上旬に売上は少し上向き始めた。

構造用鋼

- ① 自動車関連の生産再開を受けて、各メーカーともフル生産の状況。店売は8月より値上げが本格化した。
- ② 需要環境は、建設機械、産業機械関連等、堅調な荷動きとなっており、さらに自動車生産の急回復を受けて先行きの需給はタイト化しているものと思われる。市況については、メーカーの店売り値上げを受けて再販価格も浸透しつつあり、8月中には市中全体に広がっていくものと思われる。

その他

<曲げ加工>

- ① 先月より加工売上が下落し、7月は今一つ伸びず苦慮した。ただし、昨年7月はあまりにも加工売上が低かつたので、前年同月比ではやや増加した。昨年に比べればいくらか上昇気味だが、全般の景況感が伸び悩んでいる。今後の予想としては横這いか。

<その他加工>

- ① 相変わらず短納期(1～2日間)にもかかわらず、単価には全く考慮なし。材料不足の傾向も見られないので、しばらくこの状態が続きそうだ。

<スクラップ>

- ① 業種によりまちまちであるが、5月、6月から見ると多少の荷動きは出て来た。

<金属表面処理加工>

- ① 7月は、紐付、物件物とも計画通り。一部止まっていた物件も再スタートし、予定より10%増の処理となる。スポットは前月同様低調であった。8月は、7月実績と同量の処理量を予定しており、プラント関係を中心に物件の動きを実感。先物件の見積りも多く、下期に向けて高い操業を期待する。